

ネットワーク

東北大学文学部
同窓会会報
2010年9月
vol.3

本源へ、世界へ

文学部同窓会に公式な事務局が誕生しました。これを機に、同窓生と教職員と在学生のネットワークを確立すべく、冊子を発行いたしました。年1回、定期的に発行してまいりますので、情報交流の場所として、発言の場所としてご利用ください。



緑したたる川内キャンパスから、
第3号をお送りします。

10月9日(土)・10日(日)東北大学103周年ホームカミングデー開催
リニューアルが進む川内キャンパスにおでかけください

103周年ホームカミングデーのメイン会場となる「東北大学百周年記念会館 川内萩ホール」



生協のリニューアルによって誕生した川内南キャンパスのカフェレストラン



東北大学植物園、仙台城址へと続く川内北キャンパスの文系4学部前並木道

文学部同窓会会報第3号をお送りします。
この10月9日・10日には、2007年の100周年を記念してリニューアルされた「東北大学百周年記念会館 川内萩ホール」で「103周年ホームカミングデー」が開かれます。10月9日の仙台セミナーでは、「東北の精神」の場が生み出す価値と「選択」と題して、特別講演、講演、パネルディスカッションが行われます。
いま川内キャンパスでは、講義棟、生協などのリニューアルがどんどん進んでいます。美しく変身したキャンパスにおでかけください。

「文学部ブックレット」 Vol.5が発行されました。

東北大学文学部・文学研究科の情報誌として発行している「ブックレット」の第5号が2010年6月に発行されました。

第5号の主な内容

- ▶ 巻頭インタビュー(文学部からの発言)
小林隆教授の「方言学」からの発言 P2~9
- ▶ 企業・社会との対話
せんだいメディアテーク&花登正宏教授 P10~16
- ▶ 歴代研究者メモリアル
河野与一 P17~20
- ▶ 文学部の研究紹介
大淵憲一教授の『謝罪の研究』 P24~31
- ▶ 文学部ゆかりの宝もの
河口慧海コレクション P36
- ▶ 図書館・書店との対話
東北大学附属図書館 P21~23



2010年度オープンキャンパスの文学部の主な内容

7月28日(水)	第1会場(文学部第1講義室)	第2会場(経済第3講義室)
午前の部	10:00 ~ 11:40	
あいさつ	花登正宏文学部長	才田いづみ文学部副学部長
文学部案内	座小田豊教授	正村俊之教授
公開講義	佐藤伸宏教授(国文学) 「詩の生まれるところ」	小泉政利准教授(言語学) 「言葉を理解する脳の動き」
午後の部	13:30 ~ 15:00	
文学部案内	木村邦博教授	三浦秀一教授
公開講義	下夷美幸准教授(社会学) 「比較の中の日本の家族」	島越郎准教授(英語学) 「英語における二重目的語構文の特徴」
大学院説明会	15:30 ~ 17:00(文学研究科棟3階視聴覚室)	

7月29日(木)	第1会場(文学部第1講義室)	第2会場(経済第3講義室)
午前の部	10:00 ~ 11:40	
あいさつ	花登正宏文学部長	大淵憲一文学部副学部長
文学部案内	正村俊之教授	座小田豊教授
公開講義	芳賀京子准教授(美学・西洋美術史) 「ギリシア彫刻の魅力」	戸島貴代志教授(倫理学) 「ひっかかりを持つこと」
午後の部	13:30 ~ 15:00	
文学部案内	三浦秀一教授	木村邦博教授
公開講義	今井勉准教授(フランス語学・フランス文学) 「文学都市のバリの構造」	川合安教授(東洋史) 「六朝貴族の世界」
大学院説明会	15:30 ~ 17:00(文学研究科棟3階視聴覚室)	



7月28・29日、オープンキャンパスに、
5万1766人の参加がありました。

7月28・29日、東北大学のオープンキャンパスが開かれました。年々、定着し、参加高校生は数万人、国立大学ではナンバーワン規模になっています。2009年度の4万5千人に続き、2010年度は5万2千人弱でした。
文学部でも、独自のプログラムを組み、高校生への積極的なアピールを図りました。

[発行] 東北大学文学部同窓会 〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号
tel. 022-795-6087 (月・木 午前10時~午後4時) fax. 022-795-6086 [URL] <http://www.sal.tohoku.ac.jp>
[発行年] 2010年9月

©東北大学文学部同窓会



同窓会長
文学部長・文学研究科長
花登 正宏

平成十六年四月に全国の国立大学は一斉に法人化したことは、皆様ご存知のことと存じます。法人化しますと、国立大学法人、そしてそれを構成する学部・研究科ごとに、六年を一期として達成すべき中期目標を策定する必要があります。そして、その目標を達成するための中期計画を年度ごとに立てて、それを着実に遂行したうえで、それを達成したかどうかについて自己評価し、さらにその自己評価に基づいて第三者による評価を受けることとなっております。第一期の中期目標中期計画期間は本年三月をもって終了し、四月よりは第二期の中期目標中期計画期間にはいったこととなります。

評価は、大きく教育・研究に分けて行われることとなり、第一期の最終的な評価はまだ出ておりませんが、平成十六年より十九年までの四年間を評価する期間評価の結果はすでに公表され、教育についてはとくに高い評価は受けませんでした。研究に関しては高く評価されたことを紙面を借りてご報告させていただきます。

さて、文学部・文学研究科は、第一期の中期目標の中に「社会との連携」を掲げ、地方文化事業、地方自治体等へ貢献すると共に、その研究成果を社会へ還元するため、公開講座の開催等を行って参りました。しかし、社会との連携といえ、最も重視すべきは同窓会との連携であることは言うまでもなく、その連携をさらに強化するため、平成二十二年には文学研究科の研究・広報面における運営にあたる研究広報室の中に社会連携担当を設け、具体的な連携の在り方及び同窓会活動の活性化の具体的方策等について検討しているところから、そのためには、財政的基盤の充実が欠かせないところから、広く会員に対し同窓会への賛助金を募ることを昨年開催の同窓会総会にお諮りし、承認されました。これにつきまして、会員の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。今後とも、同窓会の活動にますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ごあいさつ

10月9日(土)・10日(日)の103周年ホームカミングデーに、是非お出かけください。

2007年の東北大学創立100周年以後、恒例となっていた「ホームカミングデー」。今年は、「103周年ホームカミングデー」として10月9日・10日に開かれます。メイン会場となる川内萩ホールでは、これまでの仙台セミナー、コンサート、文化フェスティバルに加えて、ロビーコンサートなども予定されています。仙台セミナーでは、東北の文化や歴史にスポットを当て、その奥にあるアイデンティティを講師のリレートークによって深く掘り下げる「東北の精神」がテーマです。また、「東北の精神」をテーマに設定。文学研究科・鈴木岩弓教授が「生者と死者が出会う場所―霊地からみた東北の精神世界」と題した講演を行うなど、文系に特化した内容となっております。

恐山、山寺立石寺、森の山などのような特別なスポットに注目し、そこでなされる生者と死者の出会いの中から、東北の精神世界の特質を探ることにしたい」というものです。なお、本年度は、一昨年度と同様に、ホームカミングデーに合わせ、文学部同窓会による講演会の開催を予定しておりましたが、全学の行事として仙台セミナー「東北の精神」が生み出す価値と選択」が開催されることから、講演会は行いません。人文的なテーマを持つ講演会を開催され、文学部同窓会の会員でもある鈴木岩弓氏(1977年卒業、宗教学、平川新氏(1980年博前修了、日本史)の講演もある10月9日(土)の仙台セミナーにどうかふるってご出席ください。参加申込は、9月20日(月)までです。電子メールかFAXにてお申し込みください。詳しくは、下記の東北大学校友会のURLをご覧ください。



(右の写真は2009年の102周年ホームカミングデー時のものです)

■東北大学103周年ホームカミングデーの主なプログラム (入場無料)

日 時	行事予定
10月9日(土)	11:15 ~ 12:00 東北大学校友会総会(川内萩ホール) 事前申込必要
	13:00 ~ 15:50 仙台セミナー(川内萩ホール) 事前申込必要 テーマ ●「東北の精神―“場”が生み出す価値と選択―」 特別講演 ●「東北の文化性」作家・伊集院静氏 講演 ●「なぜ政宗は仙台を選んだか―政宗の国造りにみる“場”の思想―」 東北アジア研究センター・平川新教授 ●「生者と死者が出会う場所―霊地からみた東北の精神世界―」 文学研究科・鈴木岩弓教授 パネルディスカッション ●3名の講演者が意見交換を行う。
	12:00 ~ 19:00 在校生と卒業生との親睦会(川内北キャンパス) 12:00 ~ 16:30 ●第1部(川内サブアリーナ棟2階・3階) 約80社・約160名の卒業生が就職活動へアドバイス。 17:00 ~ 19:00 ●第2部(川内の杜ダイニング) 立食形式で親睦・交流を図ります。
10月10日(日)	13:00 ~ 17:20 秋の文化フェスティバル(川内萩ホール) 13:00 ~ 15:30 ●ステージ(音楽ホール) マンドリン楽部、JazzORCHESTRA、落語研究部、吹奏楽部、リコーダーアンサンブル、美術部、男声合唱部 ほか
	13:00 ~ 17:20 ●展示(2階ホワイエ、1階展示ギャラリー) 写真部、美術部、書道部 ほか
	13:00 ~ 17:20 ロビー・パフォーマンス(川内萩ホール ロビー) 奇術部、書道部、落語研究部、青葉城址、ブルーグラス同好会 ほか
	17:30 ~ 19:30 東北大学103周年ホームカミングデー記念コンサート(川内萩ホール) 事前申込必要 第1ステージ●混声合唱団合唱 「緑なす平和の学園」「荒城の月」「赤とんぼ」「大地讃頌」 第2ステージ●男声合唱団合唱 「合唱のためのコンポジションIII」より 第3ステージ●パフォーマンス「田園の嵐」 第4ステージ●混声合唱団合唱 「水のいのち」より「川」、「流浪の民」 「明日に架ける橋」「六つの子守歌」 「Let the sunshine in」 第5ステージ●男声合唱団合唱 「Loch Lomond」「Down By The Sally Gardens」 「Vive! Amour」 第6ステージ●男声合唱団、混声合唱団、女声合唱団合唱 「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲、 「君のせて」 「青葉もゆるこのみちのく」

事前申込、詳細は、東北大学校友会のホームページをご覧ください。

<http://www.tohoku.ac.jp/hcd/>

東北大学総務部広報課校友係
問い合わせ ☎022-217-5059 / ☎022-217-4818



文学部同窓会副会長
菅井 茂

今年3月の「東北大学文学部卒業・修了祝賀会」では、同窓会を代表し次のような饒の言葉を卒業生・修了生に贈りました。「自他超然 処人謙然 有事斬然 無事澄然 得意淡然 失意泰然」、これは「六然訓」と言われるもので、仙台藩出身の日本銀行第二代総裁富田鐵之助が、ときの蔵相松方正義と金融政策論で対立し、僅か一年足らずで総裁を辞めました。その報告に恩師の勝海舟のところに伺った際、勝海舟からこの「六然訓」をいただき、富田は終生これを座右の銘としていたと言われています。「六然訓」の出版先は明の崔銑著「聴松堂語鏡」

「六然訓」の意味するところは、自分自身の問題のときは物事にとらわれず、人に接するときは和やかでのんびりした雰囲気であり、何か問題が起こった時は愚図愚図せずきびきびと取り組み、何事もない時は水のように澄み切っていて、得意のときはあっさりして、失意のときはゆったりと構えているということだろうと思います。

今の日本は、政治的にも経済的にも先の見えない時代で、皆さんは不安が一杯であろうと思います。しかし、こういう時代だからこそ「六然訓」のように振る舞うことで「人間らしく」生きることが出来ると思います。

この「六然訓」を紹介したのは、自分も含めて今の日本には、他人はどうでも自分さえよければと考え、問題が起こると慌てふためき何もなければ不善をなし、得意の時は慢心し失意のときはひどく落ち込むというような人間が多いと思うからです。自分自身「六然訓」を実践できる人物に近づこう努めたいと心掛けている昨今です。

「六然訓」を心掛ける

「阿部次郎記念賞 青春のエッセー」 第4回作品募集中

現在、全国の高校生・高専生に向けて、第4回「阿部次郎記念賞 青春のエッセー」の作品を募集中です。課題作品のテーマは「記念日」。6月中旬に募集を開始し、9月10日の締切、10月に発表という日程となっています。選考のための特別審査委員には、仙台在住の歌人・俵万智さんをお願いしています。

この賞は、2007年の東北大学創立100周年を記念して制定したものであり、ここにも、東北大学研究教育振興財団に寄せられた同窓生の志(寄附金)からのサポートをいただいたてきました。残念ながら今回は、財団の解散により、若干規模を縮小し、表彰イベントや作品集の出版は行わないこととなっていますが、だからこそ余計に高校生に勝れた作品応募に期待するところです。同窓生の皆さんにも、これまで以上のご協力をお願いさようお願いする次第です。



問い合わせ先 ☎022-795-6032 阿部次郎記念賞事務局 (長谷川公一教授研究室)

俵万智さんのお父上は、東北大学の「永久磁石」研究者の一人です

ところで、特別審査委員をお引き受けいただいた俵万智さんは、子育ての環境を考えて、ご両親の住む仙台に引っ越してこられました。実は、東北大学の理学研究科修了のお父上は、就職した企業で「永久磁石」の研究に携わっていらした方なのです。

東北大学の「永久磁石」の歴史を繙くと、本多光太郎博士の「KS鋼」「新KS鋼」から、現在の杉本愉・高橋研教授の「脱希少金属磁石」までの間に、俵好夫博士の「サマリウムコバルト磁石」開発も記録されています。

そしてなんと、俵万智さんの第一歌集「サラダ記念日」には、次のような歌が記されているのです。

東北の博物館に刻まれし

父の名前を見届けに行く

ひところは「世界で一番強かった」

父の磁石がうずくまる棚



写真はすべて2009年の「紅葉の賀」です



紅葉の賀2010	11月3日(水曜・文化の日)
9:00 ~ 13:00	俳句会(投句自由・臆目吟)
10:00	オープニング・セレモニー
10:00 ~ 13:00	野点
10:15 ~ 10:50	邦楽野外演奏(東北大学学生会友会邦楽部)
11:00 ~ 12:30	植物園内ガイド付散策
13:30 ~ 15:10	公開講演会(東北大学文学部第一講義室) 「古典文学に見る、萩の名所 宮城野の成り立ち」 佐倉由泰 文学研究科教授 「ミヤギノハギの植物学的正体は…」 大橋広好 東北大学名誉教授・前東北大学植物園長
15:30 ~ 16:00	俳句会授賞式(東北大学文学部第一講義室)



毎年11月3日、文学研究科と東北大学植物園の共催で開いている東北大学市民オープンキャンパス「紅葉の賀」は、今年も植物園を中心会場として例年どおり開催いたします。当日は、9時から16時の間、植物園が無料開放されるほか、左記のようなさまざまな行事が予定されています(13時以前の行事はいずれも植物園にて開催されます)。どうぞお出かけください。

11月3日、恒例の「紅葉の賀」に お出かけください

「有備館講座」、「齋理蔵の講座」も盛況です

文学部・文学研究科では、研究成果を地域に広め、役立ててもらうために、各種の公開講座も開き、その内容をまとめて東北大学出版会から出版しています。

その一つは、宮城県北大崎市岩出山の有備館近くの会場(スコールハウス)で開く「有備館講座」。もう一つは、県南丸森町の齋理蔵で開く「齋理蔵の講座」です。岩出山は伊達政宗が仙台に移る前に居城していた由緒ある城下町として、丸森町は阿武隈川の舟運で栄えた商人町として栄えた街で、宮城県を代表する観光名所となっているところです。観光と一緒に楽しんでいただける講座です。2010年度は下記のとおり開催しています。



有備館講座(写真は森本浩一教授による講座)



齋理蔵の講座(写真は田中重人准教授による講座)



■「有備館講座」(第9期)

テーマ:「人間」を科学する—文学部の発想—

- 5月15日(土)●人間の心理と行動(辻本昌弘准教授)
- 6月19日(土)●宗教から「人間」を科学する(鈴木岩弓教授)
- 7月17日(土)●虚像としての「人間」(森本浩一教授)
- 8月21日(土)●文化の翻訳—文化人類学のアプローチ—(沼崎一郎教授)
- 9月18日(土)●北宋の首都開封—『東京夢華録』の世界—(熊本崇教授)

■「齋理蔵の講座」(第3期)

- 6月5日(土)●『ラオコーン』の彫刻家たち(芳賀京子准教授)
- 7月3日(土)●リメンバー「ウーマンリブ」(片岡龍准教授)
- 8月7日(土)●ワーキング・ウィメンズ・ネットワークを形成した運動家たち(田中重人准教授)
- 9月4日(土)●河野与一とフランス文学(今井勉准教授)
- 10月2日(土)●辞書論から見た大槻文彦の「大言海」(千種真一教授)

2009年に始まった「リベラル アーツサロン」も順調です

この7月30日、せんだいメディアアテックで「リベラルアーツサロン」が開かれ、経済学研究科・西出優子准教授と共に「地球におけるNPOとソーシャル・キャピタルの意義」について話しあわれました。ソーシャル・キャピタル(社会資本)の問題は、文学部・文学研究科では社会科学の重要なテーマの一つともなっており、興味深いサロンとなりました。

これは、2009年11月、文学部・文学研究科を含む文系4学部と国際文科研究科、教育情報学研究所、教育情報部、東北アジア研究センターが連携して始められた公開イベントです。「人間を自由にするための学問」を意味するリベラルアーツにより、中学生、大学生、社会人の皆さんに幅広い教養を身につけてもらおうという趣旨です。

2010年度は、4月9日、文学研究科・佐藤嘉倫教授の「公平な分配は社会にどう広がるのか」(東北大学附属図書館)が始まりました。隔月で、せんだいメディアアテックと東北大学附属図書館を会場に、社会的に大事なテーマを気軽に話し合うものになっています。

column

『東北大学百年史』 全11巻、2010年3月 完結

東北大学では、『東北大学百年史』の発行が、2007年の創立100周年を節目とする「百周年記念」の事業の一つの柱とされてきました。東北大学研究教育振興財団に寄せられた同窓生の志(寄附金)がこの編集事業にも投入され、財団が解散した2010年3月末、百年史11巻も完成。1997年に今泉隆雄文学部教授を室長としてスタートした編集室も、このたびの完結で解散となりました。

第4巻「部局史1」には、法文学部時代からの文学部・文学研究科の歩みが193p(p177~369)にわたってまとめられています。6,000円とちょっと高めですが、東北大学出版会で注文を受付けています。



問い合わせ・申し込み ☎022-214-2777 東北大学出版会

■「リベラルアーツサロン」2010年度後期の予定

問合せ先 ☎022-217-4977 東北大学広報課
HP: <http://cafe.tohoku.ac.jp/salon/>

10月22日

●クチコミを科学する
(経済学研究科・渋谷寛教授/せんだいメディアテーク)

11月12日

●自然の制約のもとで「よりよく」暮らそう!
(国際文化研究科・ディニル プシュパール教授/せんだいメディアテーク)

2月18日

●民族から見た中国
(東北アジア研究センター・上野稔弘准教授/東北大学附属図書館)



西出優子准教授からは、『孤かなボウリング』(2006年)の名著で知られるロバート・バットナム博士の語の定義なども紹介され、NPO等の活動を例にとった日本の社会資本の現状等について報告されました。

2009年～10年、同窓生のこんな著作が見られました

木田元さんの『闇屋になりそこねた哲学者』の中に、東北大学の哲学研究の世界

5月に出版された木田元さんの『闇屋になりそこねた哲学者』(ちくま文庫)が、文学部に入学生し、教養部助手・講師の職を辞して中央大学文学部に移るまでの自身の東北大学文学部時代について詳しく記しています。東北大学の哲学研究が、どんなに元氣だったかわかるものなので、この本に分け入ってみましょう。

1947年に山形県鶴岡市に新設された山形県立農林専門学校で学んでいた木田さんは、ハイデガーの『存在と時間』を読みたいという目的だけで、「傍系入学」を認めていた東北大学を受験。「結果的に、多くのやりたかったことに一番適した大学に入ることができました」という結果になったのです。そして、「東北大学で三宅剛一先生と出会いました」という東北大学の哲学学習が始まりました。

以下、教官として、**高橋里美**(1921.4.8。49.5.7総長)、**三宅剛一**(1924.5.4)、**河野与一**(19

27.5.0)、**真方敬道**(1936.3.8、1948.7.3)、**木場深定**(1932.3.9、1946.7.1)、**矢島羊吉**(1948.7.0)、**松本彦良**(1950.5.8)、**細谷貞雄**(1960.7.7)教授、級友や先輩として、**西村規矩夫**(1953卒業。関西大学教授等歴任)、**船橋弘**(1953卒業。岡山大学教授等歴任)、**斎藤信治**(1934卒業。北大教授等歴任)、**斎藤忍雄**(1971.9.0)さんらの名前がズラリと並びます(特にことわらずに挙げた数字は東北大学文学部教官在籍年)。

真方先生にギリシア語、木場先生にドイツ語を習い、三宅先生にカントの『純粹理性批判』、木場先生にヘーゲルの『精神現象学』などの読み方を教わりました。「東北大学で教えられた本の正確な読み方は貴重な財産になりました」と記されています。そして鶴岡の先輩である斎藤信治さんからは「勉強するなら仙台が一

番いい。だからいられるだけ仙台にいて勉強しろ。就職口はわしが見つけてやるから」と言われたことや、細谷教授のハイデガー『存在と時間』「ニーチェ」、ランググレーベ『現代の哲学』の翻訳を手本にしたことなどが綴られています。

木田さんが学んだ時代とそれ以前に限っても、東北大学の現代哲学、西洋哲学史などの研究者たちは、細谷恒夫教授(1955.6.7)など木田さんの本には名前があがっていない教官も含めて、左記のように手軽に読める翻訳文庫を数多く残しています。



1950-60年当時の教官・同窓生の文庫本(敬称略)

- 三宅剛一**
『人間存在論』(講談社学術文庫)
- 河野与一**
ライブニッツ『形而上学叙説』・『单子論』
ベルクソン『思想と動くもの1~3』(いずれも岩波文庫)
その他略(『ブックレット』vol.5・17p~参照)
- 真方敬道**
ベルクソン『創造的進化』(岩波文庫)
- 木場深定**
ニーチェ『道徳の系譜』・『善悪の彼岸』
シュライエルマッハー『独白』(いずれも岩波文庫)
- 細谷恒夫**
フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』(中公文庫)
- 細谷貞雄**
ハイデガー『存在と時間上・下』(ちくま学芸文庫/亀井裕・船橋弘の協力)
ショーペンハウエル『知性について』(岩波文庫)
- 斎藤信治**
キルケゴール『死に至る病』(岩波文庫)
- 斎藤忍雄**
ショウベンハウエル『読書について』、『ギリシア・ローマ古典文学案内』(いずれも岩波文庫)・『アポロンーギリシア文学散歩』(岩波現代文庫)
プロティノス『美について』・『プラトン』(いずれも講談社学術文庫)



細谷教授の『存在と時間』上巻、「一九六三年九月 仙台にて」と締め括られている「後記」には、「昭和三十六年の夏のはじめに、私は一方では理想社と交渉して二年間の猶予期間をもらい、他方では研究室の同僚の諒解を得て、亀井裕、船橋弘両氏の協力を仰ぐことにした」の記述があります。

木田さんの時代以前の教官の文庫本

- 石原謙(1924-40)**
ルター『キリスト者の自由 聖書への序言』(岩波文庫)(『ブックレット』vol.4・17p~参照)
- 久保勉(1929-44)**
プラトン『饗宴』
クリトン『ソクラテスの弁明』
ケーベル『ケーベル博士随筆集』(いずれも岩波文庫)
- オイゲン・ヘリゲル(1924-29)**
『日本の弓術』(岩波文庫)
『禅の道』(講談社学術文庫)
- カール・レーヴィット(1937-41)**
『共同存在の現象学』(岩波文庫)



講談社学術文庫、岩波文庫の中に、東北大学の中国文化学、インド文化学、東洋史学の研究成果

1922年の法文学部創立以来の東北大学の文学研究の成果は、著作や論文によって辿ることが出来ます。そんな中、書店に出かける機会があったら是非覗いてみたいのが、講談社学術文庫と岩波文庫のコーナーです。なんと、中国文化学、インド文化学、東洋史学に関するたくさんの成果が文庫になっています(ただし*印は品切れ)。



中国文化学の分野に限ってみれば、講談社学術文庫では**金谷治博士**(4冊)、**村上哲見博士**(2冊)、**浅野裕一博士**(3冊)、岩波文庫では**武内義雄博士**(2冊)、**小川環樹博士**(4冊)、**金谷治博士**(6冊)が出版され、その分野のリストの大きな割合を占めています。

中国やインドをはじめ、アジアなどのようにおつきあいでいけばよいのが、切実に問われる時代。アジアの文化に関する東北大学の古典に触れてみてはいかがでしょうか。

- 講談社学術文庫の中では**(敬称略。数字は東北大学教官在籍年)
金谷治(1948-83):『易の話』、『老子』、『淮南子の思想』、『孔子』
村上哲見(1985-94):『科学の話』、『唐詩』
浅野裕一(1988-2010<教養部・環境科学研究科>):『諸子百家』、『墨子』、『孫子』
愛宕松男(1949-75)・**寺田隆信**(1966-95):『モンゴルと大明帝国』
多田等親(1935-43):『チベット滞在記』
玉城康四郎(1976-79):『仏教の根底にあるもの』、『東西思想の根底にあるもの』
井上秀雄(1975-88):『古代朝鮮』

- 岩波文庫の中では**
青木正晃(1923-38):『華国風味』
武内義雄(1923-45)・**坂本良太郎**(1942-46):『孝経』*
武内義雄:『老子』*
小川環樹(1938-50):『唐詩概説』、『史記列伝』(全5冊)、『史記世家』(全3巻)、『千字文』
金谷治:『論語』、『莊子』(全4巻)、『孫子』、『荀子』(全2巻)、『韓非子』(全4巻)、『大学・中庸』
川合康三(1979-87):『李商隠詩選』*
宇井伯寿(1923-34):『大乘起信論』*、『頓悟要門』*、『黄檗山断際禅師伝心法要』*、『禅源諸詮集都序一付・禅門師資承襲図』*
金倉圓照(1923-59):『ヒトパーデシャー処生の教え』*
曾我部静雄(1931-65):『塩鉄論』*

同窓生の2009-2010年の主な著作から

- 青木美智男氏**(文学研究科修了)
『番付集成』(09.11 柏書房)
- 有馬哲夫氏**(文学研究科修了)
『アレン・ダレス 原爆・天皇制・終戦をめぐる暗闘』(09.8 講談社)
- 『CIAと戦後日本』(10.6 平凡社新書)
- 及川健二氏**(文学研究科修了)
『日本史はじめの一步』(10.3 パレード)
- 大角修氏**(文学部卒)
『日本仏教史入門-基礎史料で読む』(09.11 角川選書/山折哲雄氏との共著)
『宮沢賢治の誕生-そのとき銀河鉄道の汽笛が鳴った-』(10.5 中央公論新社)
- 奥山直司氏**(文学部卒・文学研究科修了)
『評伝 河口慧海』(09.11 中公文庫)
- 小野正弘氏**(文学研究科修了)
『オノマトペがあるから日本語は楽しい』(09.7 平凡社新書)
- 木田元氏**(文学部卒、元文学部助手)
『ピアノを弾くニーチェ』(09.9 新書館)
『精神の哲学・肉体の哲学』(10.3 講談社)
『闇屋になりそこねた哲学者』(10.5)
- 高城高氏**(文学部卒)
『函館水上警察』(09.7 東京創元社)
- 近藤哲氏**(文学部卒)
『夏目漱石と門下生・皆川正禱』(09.8 歴史春秋出版)
- 今野勉氏**(文学部卒)
『テレビの青春』(09.3 NTT出版)
- 斎藤史子氏**(文学部卒)
『慈愛の人和気広虫-清麻呂を支えた才女』(09.11 淡交社)
- 佐藤賢一氏**(文学研究科修了)
『小説フランス革命Ⅲ~V』(09.3~10.3 集英社)
『フランス革命の肖像』(10.5 集英社新書)
- 佐藤憲一氏**(文学部卒)
『伊達政宗の手紙』(10.1 洋泉社MC新書)
- 繁田信一氏**(文学研究科修了)
『御書司たちの王朝時代』(09.8 角川選書)
- 島田謙二氏**(文学部卒。故人)
『アメリカにおける秋山真之上・中・下』(09.11 朝日文庫)
- 千坂峰峰氏**(文学部卒・文学研究科修了)
『樹木再生和尚の自然再生』(10.3 地人書館)
- 中村彰彦氏**(文学部卒)
『慈悲の名君 保科正之』(10.2 角川選書)
『天保暴れ奉行 上・下』(10.4・5 中公文庫)
『名将と参謀』(10.6 PHP文庫)
- 早尾貴紀氏**(文学部卒・経済学研究科修了)
『ユダヤとイスラエルのあいだ』(09.3 青土社)
- 平田隆一氏**(文学部卒・文学研究科修了)
『エトルリア人-ローマの先住民民族 起源・文明・言語』(09.2 白水社文庫クセジュ)
- 藤木久志氏**(文学研究科修了)
『中世民衆の世界-村の生活と掟』(10.5 岩波新書)
- 星亮一氏**(文学部卒)
『龍馬の流儀』(10.4 光人社)
- 『ノモンハン事件の真実』(10.6 PHP研究所)
- 前田勉氏**(文学研究科修了)
『江戸後期の思想空間』(09.2 ぺりかん社)
- 松長有慶氏**(文学研究科修了、元文学部講師)
『大宇宙に生きる空海』(09.12 中央公論新社)

- 『大日経住心品講讃』(10.2 大法輪閣)
- 『二十一世紀の生かす真言密教の智慧』(10.5 春秋社)
- 宮坂宥勝氏**(文学部卒)
『傍訳弘法大師空海金剛頂経開題』(09.11 四季社)
『傍訳弘法大師空海法華経開題』(10.3 四季社)
『日本仏教のあゆみ』(10.4 大法輪閣)
- 三浦淳氏**(文学部卒・文学研究科修了)
『鯨とイルカの文化政治学』(09.12 洋泉社)
- 安村敏信氏**(文学研究科修了)
『柴田是真 幕末・明治に咲いた漆色の超絶技巧』(09.12 平凡社)
- 『幕末の探検家松浦武二郎と一疊敷』(10.6 INAX出版)
- 矢部良明氏**(文学部卒)
『すぐわかる茶の湯の懐石道具』(09.2 東京美術)
- 山折哲雄氏**(文学部卒・文学研究科修了)
『天皇の宮中祭祀と日本人』(10.1 日本文芸社)
『人間連如』(10.2 洋泉社MC新書)
『17歳からの死生観 高校生との問答集』(10.2 毎日新聞社)
- 『愛欲の精神史1~3』(10.3 角川ソフィア文庫)
『わたしが死について語るなら』(10.3 ポプラ社)
- 山形孝夫氏**(文学部卒・文学研究科修了)
『聖書の起源』(09.12 ちくま学芸文庫)
- 屋山太郎氏**(文学部卒)
『JAL再生の嘘』(10.3 PHP研究所)
- 渡辺和靖氏**(文学部卒・文学研究科修了)
『吉本隆明の一九四〇年代』(20.4 ぺりかん社)

吉原直樹教授(社会学専攻)に、「地域社会学会賞」

2010年5月、吉原直樹教授(日本学術会議連携会員)が「地域社会学会賞」を受賞しました。2008年に出版した『モビリティと場所—21世紀都市空間の転回—』(東京大学出版会)が対象となり、「地域社会学研究のこれまでの理論的あるいは実証的水準を顕著に高めた」ことが評価されている。1995年に『都市空間の社会学論』(東京大学出版会)で、日本都市学会賞を受賞したのに続く受賞となりました。

吉原教授は、この本と前後して、『グローバル・ツーリズムの進展と地域コミュニティの変容—バリ島のバンジャールを中心として—』(2008年/御茶の水書房)、『世界の都市社会計画—グローバル時代の都市社会計画—』(2008年/東信堂)、『防災の社会学』(2009年/東信堂)、『都市社会計画の思想と転回—アーバンソーシャルプランニングを考える—』(2009年/東信堂)など、日本と世界の社会学研究に関して多彩な単著・編著・共著を送り出しています。

同時に、東北都市学会会長、東北社会学研究会会長、東北社会学会会長などを歴任し、東北都市学会通信『東北都市学会報』や『仙台都市研究』を発行するなど、宮城県と東北地方の地域問題への研究、発言に力を入れています。



『モビリティと場所—21世紀都市空間の転回—』

G・C・O・E「社会階層と不平等教育研究拠点(CSSJ)」から、次々と

国際的に卓越した研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図ることを目的に、文部科学省は2006年度から「グローバルC・O・E(G・C・O・Eと略称)プログラム」の採択を行っています。東北大学は、東京大学の16件に次ぐ12件のプログラムが採択され、人材育成に取り組んでいます。

その一つが、文学研究科の「社会階層と不平等教育研究拠点(CSSJ)」です。佐藤嘉倫教授(社会学専攻)を拠点長に、台湾、韓国、アメリカ、イギリスの大学とも交流しながら、社会の階層や不平等がどのように生まれ、変動していくのかを世界的なスケールで研究、教育しています。メンバーとなっている研究者は、社会階層と不平等の

column

東北文化公開講演会から、阿部恒之教授の「化粧心理学」への興味...

文学研究科では、市民とのふれあいを求めて、公開講演会なども開いています。

7月10日には、東北文化研究室の「東北文化講演会」を片平さくらホールで開催し、阿部恒之教授(心理学)による「心理学で解き明かす化粧の秘密」と、泉武夫教授(東洋・日本美術史)による「王朝時代の価値観と中尊寺経」の二つの講演がありました。

会場では、泉教授の東北文化にかかわる話とともに、阿部教授の化粧の心理学というテーマにも関心が集まりました。阿部教授は、文学部卒業(心理学専攻)後、資生堂に就職。ビューティーサイエンス研究所で化粧に関する心理の実践的な研究に携わり、『化粧心理学—化粧と心のサイエンス—』の出版などに参加しています。在社中に文学研究科を修了(実験心理学)し、2005年に助教授として赴任して以後、研究はさらに広く、深くなりました。講演では、高齢者福祉施設に入所している認知症の高齢者が化粧をするようになって回復したといった例も報告されました。教授の著述や執筆になる『ストレスと化粧の社会生理心理学』(2002年)や『日本の化粧文化—化粧と美意識—』(2007年)を是非読んでみたいと思わせる講演でした。



『謝罪の研究—釈明の心理とはたらき—』

大学院GP「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」も進展

前号で、文学研究科の人材育成プログラム「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」が、文部科学省の「大学院教育改革支援プログラム(大学院GP)」に選定されたことを紹介しました。

2009年度には15件を採択し、フィールドスクール、国際セミナー、国際シンポジウムなどの開催を支援しました。2010年度には採択件数は24件に広がり、8月には山形県真室川町での埋蔵文化財調査実習を含む国際フィールドスクールなどが予定されています。



column

故・原研二氏の遺作『白雪姫たちの世紀末』発刊

2007年5月、『ブクレット』創刊号の「文学部の研究紹介1」で、原研二教授(当時)の『ヤコブ・ブルクハルト批判全集』共同編集の仕事を紹介しました。スイス、イタリア、ドイツ、日本の40人以上の研究者が参加した国際プロジェクトで、原教授は、全29巻に及ぶ膨大な作品の第4巻『イタリアルネサンスの文化(Cultur der Renaissance in Italien)』の編集に取り組んでいるところでした。

しかし病に倒れた原教授は、2008年9月28日、完成へあと一歩というところで逝去。その病床でまとめあげられた遺作の1冊が『白雪姫たちの世紀末』であり、この8月に郁文堂より刊行されました。改めてご冥福を祈るとともに、出版を慶び合いたいと思います。

東北大学出版会からの発表も着々

1996年11月、東北大学研究教育振興財団の助成によって東北大学出版会が成立。翌97年9月と11月に3冊を発行して以後、多彩な出版を積み重ね、2010年8月中旬現在で248点を数えています。

既存出版社から出版されることが多い文学研究科の研究者は、東北大学出版会から出版することはあまり多くはありません。そんな中、2009年度、2010年度には、教員および同窓生から、次のような出版がありました。



- 先崎彰容氏(文学研究科修了)●『個人主義から自分らしさへ—福沢諭吉・高山樗牛・和辻哲郎の「近代」体験—』(2010年5月)
- 大淵憲一教授●『謝罪の研究—釈明の心理とはたらき—』(2010年3月) * 前著
- 栗原隆氏(文学研究科修了)他●『空間と形に感応する身体』(2010年3月)
- 佐々木千佳専門研究員・芳賀京子准教授●『都市を描く—東西文化にみる地図と景観図—』(2010年3月) * 後著
- 三浦秀一教授●『東北人の自画像』(2010年2月) * 前著
- 桐原健真准教授●『吉田松蔭の思想と行動』(2009年6月)

東北大学出版会の「若手研究者出版助成」から社会へ

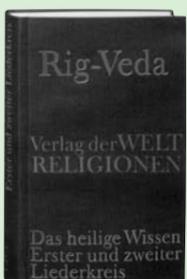
この桐原健真准教授の『吉田松蔭の思想と行動』は、東北大学出版会の「若手研究者出版助成」によって形になったものです。この助成は、若手研究者の成果を一定の審査を行い、積極的に世に送り出していこうというものです。2010年7月末現在、写真のように20点が刊行されていますが、その内の7点が文学研究科の研究者の作品となっています。

- 桐原健真准教授●『吉田松蔭の思想と行動』(2009年6月)
- 長谷川宣之専門研究員●『ローマ帝国とアウグスティヌス—古代末期北アフリカ社会の司教—』(2009年3月)
- 永井隆之氏(文学研究科修了)●『戦国時代の百姓思想』(2007年8月)
- 大岩本幸次氏(文学研究科修了)●『金代字書の研究』(2007年6月)
- 山本史華氏(文学研究科修了)●『無私と人称—二人称生成の倫理へ—』(2006年5月)
- 松浦明宏氏(文学研究科修了)●『プラトン形而上学の探求—「ソフィステス」のディアレクティケーと秘教—』(2006年4月)
- 渋谷努氏(文学研究科修了)●『国境を越える名誉と家族—フランス在住モロッコ移民をめぐる「多現場」民族誌—』(2005年2月)



column

今秋、後藤敏文教授の『リグ・ヴェーダ』ドイツ語全訳第2分冊刊行予定



東北大学の文学研究の実力を世界の舞台で!!—インド学仏教史専攻・後藤敏文教授が取り組んでいる『リグ・ヴェーダ』全訳の仕事は、その一例です。

『リグ・ヴェーダ』は、サンスクリット語と呼ばれる古代インドアーリヤ語で書かれたインド最古の宗教文献(バラモン教経典)群「ヴェーダ」の一つです。後藤教授は、ドイツの有力出版社が企画したドイツ語全訳という国際プロジェクトの中心となり、2007年に第1分冊を刊行(『ブクレット』第4号参照)。今秋には第2分冊刊行の予定になっています。

宇井伯寿、金倉圓照、山田龍城、多田等観、羽田野伯猶...と続く東北大学文学部のインド学仏教史研究の伝統は、いままも輝き続けているのです。

たとえば『都市を描く』に、 文学研究科院生の成果が

2010年3月、文学研究科佐々木千佳専門研究員・文学研究科芳賀京子准教授編になる『都市を描く―東西文化にみる地図と景観図―』が東北大学出版会から出版されました。

佐々木専門研究員は、美学・西洋美術史を専修し、「ジョヴァンニ・ベッソリーニと十五世紀ヴェネツィア社会」で博士学位を取得し、文学研究科助教を経て現職に。芳賀准教授は、『ロドス島の古代彫刻』(2006年/中央公論美術出版)などの大著を持つ美学・西洋美術史専攻の研究者です。

この本は、佐々木専門研究員が助手時代の2006年に、石澤靖典さん(文学研究科美学・西洋美術史博士課程修了。文学研究科助手を経て、現在、東北学院大学等非常勤講師)、坂本明子さん(文学研究科東洋・日本美術修士課程修了、現在博士課程在籍)と共に、「東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム」に採択された研究を基盤にしています。

プログラムは、東北大学研究協力部が、異なる分野の若手研究者同士が共同して連携・融合研究に取り組むことにより新たな学術創成の萌芽となる課題や、積極的な文理融合型の萌芽研究課題を3年間にわたってサポートするというものです。2005年度から採択が始まりました。

佐藤琴さん(文学研究科東洋・日本美術修士課程修了。現在、東北歴史博物館研究員を加えて研究が継続され、その成果が単行本となったのです。若手研究者の研究成果にもご注目ください。



帯には、地図と景観図が表す、古今東西の「都市の姿」古代ヨーロッパ・近世イタリア・近世日本を映し出した、自己と他者による「共同体イメージ」と記されています。

文学研究科「東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム」採択状況 (両書ぎは当時)

- 2005年度 岩田美喜講師●ポストコロニアル主義のテキストにおけるアイデンティティ表象の比較文化的研究
竹之内雅文助手●医療現場との対話による「臨床死生学」の創生―地域の自然と文化に支えられた「死」の意味
- 2006年度 佐々木千佳助手●地図と都市景観図にみる異文化受容の様相
戸島貴代志助教●大学間における工学倫理教育プログラムの改訂用マニュアル作成
- 2007年度 桐原健真助教●医療現場との対話による「臨床死生学」の創生―歴史的・文化的アプローチに基づいた「死生」観研究とそのアーカイブ化
- 2008年度 なし
- 2009年度 小泉政利准教授●O型言語の文理解メカニズムに関するフィールド言語認知科学的研究

『ヘーゲル体系の見直し』に文学研究科院生が参加

2010年6月、理想社から久保陽一編『ヘーゲル体系の見直し』が出版されました。2009年3月に、日本ヘーゲル学会による「国際シンポジウムヘーゲルの体系の見直し」が開かれ、文学研究科・座小田豊教授が一分科会の司会となり、文学研究科院生の阿部ふく子さんが報告者の一人として参加していました。本書は、それらの成果がまとめられたものとも考えられます。

栗原隆さんが、「表象もしくは象が支える世界と哲学体系―知的世界を構築する神話としてのヘーゲル付けVと自己知の体系―」、阿部ふく子さんが「哲学のへ学習Vとしての体系―ヘーゲルの教育観と哲学的エンツュクロペデーの関係について―」を執筆しています。



『建築都市ブックガイド21世紀』にも文学研究科院生が参加

2010年4月、東北大学工学研究科・五十嵐太郎教授編になる『建築都市ブックガイド21世紀』(彰国社)が発行されています。五十嵐教授は、2008年9月に開かれたヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展で日本館コミッションャーに選ばれた、日本を代表する都市・建築理論家です。2010年だけでも、ほかに『ぼくらが夢見た未来都市』(6月/PHP)研究『建築はいかに社会と回路をつなぐのか』(1月/彩流社)などの共著・単著を発表し、東北大学をアピールする先頭に立っています。

実は、本書にも文学研究科の院生が執筆参加しています。笹島秀晃さん(博士課程都市社会学・学術社会学専攻在籍)であり、「ポストモダンテイの条件」(マルクスと都市)の原稿を寄せています。



大きく変化している東北大学の文学散歩、 仙台散歩も楽しみませんか。

ホームカミングデーの会場になる川内萩ホール周辺には、阿部次郎博士の『三太郎の日記』を記念した『三太郎の小径』があり、ちょうどよい散策路になっています。また、すぐ近くの仙台市博物館横には博士の「白雲の行方を問はむ秋の空」の句碑もあります。

大学構内、仙台市内を歩けば、ほかにも東北大学文学部の先達ゆかりの記念施設や記念碑などが見つかります。今年、仙台市営バスの「ふるふる仙台」なども利用して、ホームカミングデーにあわせて、文学(部)散歩、仙台散歩を楽しんでみませんか。(敬称略)

2009年から広瀬川に貸しボートも再開されており、広瀬川沿いの遊歩道を歩き、学生時代にもどって川遊びを楽しむのもお勧めです。東洋館で広瀬川を見下ろしての食事は風雅でしょう。

なお、地下鉄東西線などの工事も含めて川内周辺も日々変化していますが、本年5月には仙台市博物館が、約半年の工事閉館を経てリニューアルオープン。展示なども変化しているの、覗いてみてはいかがでしょうか。



隅櫓が仙台北城址、東北大学キャンパスへの入口となっています



広瀬川には遊歩道と貸しボートがあります



ふるふる仙台が仙台北城址、東北大学川内・青葉山キャンパスの回りを走っています



川内キャンパスの三太郎の小径(川内萩ホールの外周を巡る遊歩道です) 仙台市博物館横▼阿部次郎句碑「白雲の行方を問はむ秋の空」

新しい仙台名物にも注目を!!

このように変化、進化する仙台の中心部では、これまでの「仙台牛たん焼き」「仙台冷やし中華」「ずんだ餅」という「仙台発祥三大メニュー」に加えて、昨年7月から「仙台づけ井」が誕生。東北大学工学部の堀切川一男教授の発案を22の店で実現したもので、新鮮な近海ものの白身魚の美味しい井となっています。「巻式参(いろは)横丁」「文化横丁」の寿司処(たとえば小判寿司)などで味わうことができます。

また、本年7月には、ゼリーの消費日本一の仙台を「ゼリーのまち」にしようと、新しいゼリースイーツの開発が始まりました。秋には仙台駅のお土産コーナーなどに並んでいるかもれません。



小判寿司のづけ井



片平本部前▼岡崎義恵歌碑「みちのおく東北帝国大学の赤まつの道くる松の道」

土樋阿部次郎記念館内▼山田孝雄・山田みつえ父娘句碑「運ね歌の花咲きにけり道の奥「風花す父のやさしさ極まれり」

秋保温泉轟々峡▼小宮豊隆が命名し、土井晩翠が見下ろせば藍をたたる深き淵鎮魂台を風掠め行く「真二つに天斧をつんざきぬ三万年のあけぼの」と詠んだ



仙台北城址護国神社前▼山田孝雄句碑「天地の今わかるゝや初日影」

土樋広瀬川沿い▼阿部次郎記念館(阿部次郎博士の資料展示)

向山鹿落坂▼東洋館(阿部次郎・小宮豊隆・山田孝雄らが会合した場所)予約により広瀬川を見下ろして食事ができる。

この会報は、同窓会会員の発言、情報発信の場としてもいきたいと考えています。同窓会へのご意見、当会報へのご意見・ご感想、文学部・文学研究科情報誌『ブックレット』へのご意見・ご感想等々、なんでもけっこうですので、郵便、FAX、メールなどお寄せください。